



TITLE:

京大東アジアセンターニューズレター 第578号

AUTHOR(S):

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター

CITATION:

京都大学経済学研究科東アジア経済研究センター. 京大東アジアセンターニューズレター 第578号. 京大東アジアセンターニューズレター 2015, 578

ISSUE DATE:

2015-07-13

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/198780>

RIGHT:

2015 年 7 月 13 日発行 第 578 号

CONTENTS

シンポジウムのお知らせ.....	2
「中国経済研究会」のお知らせ.....	4
上海街角インタビュー 88.....	5
読後雑感：2015 年 第 17 回.....	8
【中国経済最新統計】.....	17



シンポジウムのお知らせ

日本産業の競争力の再構築を求めて

主催：京都大学東アジア経済研究センター

時間：2015年8月1日(土) 13時30分～

場所：京都大学国際科学イノベーション棟シンポジウムホール

(下記構内マップ 69 番の建物)

http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/access/campus/yoshida/map6r_y/

趣旨

アベノミクスの効果もあって、多くの日本企業は好業績を謳歌し、証券市場は活況を呈している。しかし、この成果の持続性は、長期的にはやはり「第三の矢」である「民間投資を喚起する成長戦略」の実効性に依存している。すなわち、民間企業の成長性と産業競争力の再構築が、今後の日本経済の健全な発展の鍵を握っていると言えるであろう。

この問題意識から、今回のシンポジウムでは、国際的な活躍が目覚ましいコンサルタントの御立尚資氏に日本産業におけるビジネスモデル転換の必要性を解説いただき、続いて注目を集める投資ファンドの代表佐山展生氏に具体的な手段としての M&A の有効性を詳解いただく。

司会 京都大学大学院経済学研究科 准教授 曳野孝

13:30-13:40

挨拶：京都大学大学院経済学研究科 研究科長 教授 岩本武和

13:40-14:40

講演：ボストンコンサルティンググループ日本代表 御立尚資

「ビジネスモデルイノベーション-日本の製造業とサービス産業の将来像-」

14:40-15:40

講演：インテグラル代表取締役パートナー 佐山展生
「競争力向上のためのM&Aと日本型バイアウト」

15:40-15:55

休憩 (質問票の回収)

15:55-16:35

質疑応答

16:35-16:45

閉会挨拶

17:00-18:30

懇親会 会場：京都大学経済学研究科 B1 みずほホール

開会挨拶 京都大学大学院経済学研究科教授/東アジア経済研究センター長
宇仁宏幸

●参加希望者は東アジア経済研究センター (ceaes2010@yahoo.co.jp) までご連絡ください。なお懇親会は参加料 2000 円を頂きます。(但しセンター支援会会員は無料です)



「中国経済研究会」のお知らせ

2015年度第4回（通算第50回）の中国経済研究会は下記の要領で開催することになりましたので、ご案内いたします。大勢の方のご参加をお待ちしております。

記

時 間： 2015 年 7 月 28 日(火) 16:30－18 : 00

場 所： 京都大学吉田キャンパス・法経済学部東館地下 1 階 みずほホール
AB

テーマ： 「中国における農業改革と大規模農家の育成
－土地制度と生産組織の改革を中心に－」

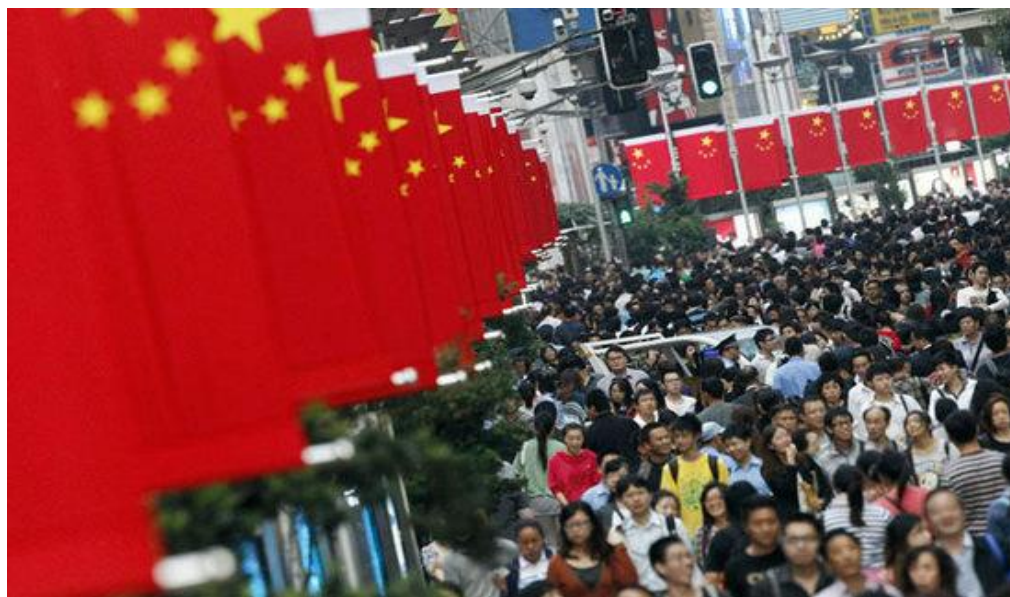
報告者： 大島一二（桃山学院大学経済学部教授）

注：本研究会は原則として授業期間中の毎月第3火曜日に行いますが、講師の都合等により変更する場合があります。2015年度における開催(予定)日は以下の通りです。

前期：4月24日（金）、 6月5日（金）、 6月13日（土）、**7月28日(火)**

後期：10月20日（火）、11月17日（火）、12月15（火）、1月19日（火）

（この研究会に関するお問い合わせは劉徳強（liu@econ.kyoto-u.ac.jp）までお願いします。なお、研究会終了後、有志による懇親会が予定されています。）



上海街角インタビュー ⑧

社団法人大阪能率協会アジア・中国事業支援室副室長（海外委員）

順利包装集团董事长（在上海）

福喜多技術士事務所所長

福喜多俊夫

中国に「クールビズ」はあるか？

日本では数年前から「クールビズ」が定着し、今年は5月から異常に暑かったため、「クールビズ」が前倒しになってビジネス街では5月からノーネクタイが主流になっていた。

中国は四季を通じてビジネスマンがネクタイを締める習慣がないので、「クールビズ」には縁がないと思ったが、中国も豊かになってきて、夏のビジネスシーン（幅広い意味で）での服装に気をつかうようになっているかもしれないと考え、街場で聞いてみた。

なお、私のアシスタントも「クールビズ」という言葉が理解できなかったもので、いろいろ説明した結果、「夏のビジネスを涼しくする服装」という意味で「清涼商務」を使うといいと教えてくれた。

1. 30歳代中頃の女性

日本もいろいろ政府が指針を出すのですね。中国人はビジネスの服装にあまりこだわりません。冬でもネクタイをしている人は少ないし、夏にネクタイをする人は皆無です。

ビジネスマンだけでなく、政府の役人も同じです。我社の社員は、男性はポロシャツか半袖シャツ、女性もタンクトップ以外はOKです。昔から変わりません。

2. 40歳代前半の男性

最近まで広州で仕事をしていました。マカオは「クールビズ」があります。政府が冷房温度を25℃以上にするように通達を出しました。以前、オフィスは22℃近辺まで室温を下げるので、男女とも長袖が必須でした。政府は「使服夏」といって半袖シャツを着て、冷房温度を上げることを推奨しています。日本政府の推奨室温は28℃ですか？

それは暑いですよ。日本で「クールビズ」が盛んになるのは当然ですね。

3. 40 歳代前半の男性

上海人には「クールビズ」は必要ありません。上海人は夏でも冬でも好きなものを来ています。私は営業職ですがスーツを着ることはまずありません。スーツを着てネクタイを締めていたら、不動産屋のセールスと間違えられます。

4. 30 歳代前半の女性

日本で言う「クールビズ」と違うかもしれませんが、職種によって夏を快適に過ごす制服的なものはあります。銀行、不動産業、公務員は夏には涼しげな服装に変わります。

一般の企業は特に「クールビズ」という考え方はありませんが、何らかの基準を設けている会社もあるようです。我社では営業担当の男性は襟のあるシャツ（ポロシャツはいいが T シャツはダメ）着用、半ズボン禁止。女性は事務所ではタンクトップはダメです。

5. 50 歳代前半の男性

私は日系企業に勤めているので、冬はスーツにネクタイ、夏は会社に着用とネクタイを置いてあり、初めて訪問する日系会社には上着、ネクタイ着用がルールです。2 回目以降は相手の服装に合わせて、相手がノーネクタイであればこちらでもノーネクタイで出かけます。中国の企業を訪問する場合は上着、ネクタイともなしです。ネクタイをしていけばかえって浮いてしまいます。中国はビジネスシーンの服装にこだわらないから日本人も中国の習慣にあわせた方がいいと思います。会社の開所式などのセレモニーでも、一部の主賓だけが上着着用で、一般来賓は普段着です。

6. 45 歳代中頃の女性

中国人は日本人より進んでいます。昔から夏は「クールビズ」、冬は「ウォームビズ」です。街のおじさんもビジネスマンも好き勝手な恰好をしているでしょう。以前は事務所でもランニングシャツで仕事をする男性事務員がいましたが、最近は文化水準があがってランニングシャツ姿は減りました。女性も中小企業ではタンクトップにショートパンツが見られます。我社ではショートパンツは OK ですが、タンクトップは禁止です。

冬は「ウォームビズ」です。事務所の中でもコートを着たりダウンジャケット

トで仕事をしています。月曜日の朝など建物が冷えているので部屋がなかなか温まりません。「ウォームビズ」は昔から常識です。

7. 40 歳代後半の男性

中国には「クールビズ」はないですよ。夏に上着を着たり、ネクタイを締めるのは不動産屋と日本企業の管理職くらいでしょう。

8. 30 歳代前半の男性

以前、日本企業に勤めていたので「クールビズ」はよく知っています。

前の会社の総経理はルールを作っていました。

- ①日系会社を初めて訪問する営業担当は上着、ネクタイ着用
- ②中国系会社を初めて訪問する時は上着だけでよい
- ③日系、中国系とも 2 回目以降は相手の服装に合わせる
- ④社内では男性は襟のあるシャツ（ポロシャツは OK）、女性は袖のある
シャツ
- ⑤日本から出張者がある場合、管理職はスーツ着用（ネクタイはしなくてもよいが、役員クラスが来る場合はネクタイ着用）
- ⑥「クールビズ」を宣言している会社との対応はスーツ、ネクタイ不要

日本人はルールを作るのが好きです。今は中国企業に勤めているので、服装にはルールなしです。でも、夏はいつも白い半袖シャツです。

考えてみれば、私が初めて中国で仕事を始めた 1995 年頃から、好き勝手な服装をするという意味で、中国はすでに「クールビズ」であり「ウォームビズ」であった。それは今も変わらない。しかし、国際化してきた上海では、会社もある程度のルールを作って置かねば、「超クールビズ」「超ウォームビズ」になってしまう。我社でも半ズボンで平気で客先へ出向く営業担当やタンクトップで堂々と現場を闊歩する事務員が居たり、いろいろあった。

以上

読後雑感：2015年 第17回

13.JUL.15

アジア・アパレルものづくりネットワーク代表理事

株式会社小島衣料オーナー

東アジアセンター外部研究員

小島正憲

1. 「日本仏教は謎だらけ」
2. 「仏教は宗教ではない」
3. 「苦の見方」
4. 「日本仏教は仏教なのか？」
5. 「仏典はどう漢訳されたのか」

釈迦は、菩提樹の下で、真理を悟ったと伝えられている。先日、私は、釈迦の境地を少しでも体験したいと思い、滋賀県東近江の百済寺に赴き、境内の菩提樹の老木の下で、しばらく座ってみた。ちょうど菩提樹の可憐な花が満開で、周辺には芳しい香りが漂い、それにつられて



蝶々や蜂、虻、蛾などがたくさん舞っていた。また菩提樹の幹には、蟻が列をなしていた。私の菩提樹の下でのしばしの「座り」は、たしかに、私の心に安らぎを与えてくれた。しかし私は釈迦とは違い、苦行を経ているわけではなく、その安らぎはすぐにかき消されていった。今度は断食という苦行後に、再びこの菩提樹の下で座してみようと思い、私はその場を去った。

ただし最近私が参加した仏教研究連続講座では、講師が、「釈迦が何を悟ったかという点について、歴史的に事実として確認できるものは、文献でははっきりしない。いうなれば、悟りの内容は、釈迦がその後に人びとに説いた教えの中に生きた形で現れているわけだから、その説法から立ち戻る方法で考えていかなければならないだろう」と、話してくれた。さらにその講師は、「釈迦は、断食や呼吸止めなどの苦行に挑んだが、結局、それらの行為から真理をさとるというこ



とはできなかった。それでもおそらく苦行の最終局面では、脳内にドーパミンなどの物質が溢れるようになり、マラソン選手などのランナーズハイと同様の、一種のハイテンション状態に没入したのではないか。その体験を経て、菩提樹の下で静かに座り、悟りの境地に至ったのではないか」との見解を示してくれた。

なおパキスタンのラホールにあるガンダーラ博物館で、釈迦の断食苦行像を拝むことができる。館内の照明が暗いこともあって、釈迦のその鬼気迫る姿は、私を慄然とさせた。すぐに私は館内の土産物店で、この断食苦行像のミニレプリカを買い求めた。今、この像は私の本棚に鎮座し、ともすれば安逸を貪ろうとする私を監視し続けている。

1. 「日本仏教は謎だらけ」 三田誠広著 双葉新書 2015年6月21日

この本には日本仏教のことが、わかりやすく、しかも面白く書かれているので、仏教に関心のない人にも読みやすいと思う。通勤途中などに、読むのに最適な書である。ただし、かなり噛み砕いて書いてあるので、仏教関係者からは異論が出ると思うような個所もある。たとえば、「寺＝テラ、仏＝ほとけ、尼＝あま、などは呉音でもなく漢音でもない、謎の言葉です」と書いているが、その真偽のほどは、私にはわからない。その他、三田氏は以下のようなことを書いている。

- ・初期仏教の経典では、釈迦の周囲にいるのは直弟子たちばかりです。これに対して、大乘経典には、人間でない弟子たちがいます。それが菩薩です。なぜこのような菩薩たちが登場するようになったのでしょうか。答えは簡単です。大乘仏教を推進した人びとにとって、閉鎖的で形骸化した上座部仏教は敵だったからです。その上座部の高僧たちは、釈迦の十大弟子たちの後継者です。だから人間の弟子たちの上に、わざと架空のキャラクターである菩薩たちを置いたのです。

- ・「般若心経」の中の、「色即是空、空即是色」という言葉をご存知だと思いますが、「色」というのは、物の存在といってもいいし、目で見えるもの、と考えてもいいと思います。目で見て、確かに何かがあると感じていても、それは本当は「空」なのですよ、ということです。これが色即是空です。逆に言えば、ただのモザイクの集積が、何かの形に見えてしまうということがあるのです。それが空即是色です。

- ・悟りの境地を向こう岸だと考え、その向こう岸に渡る実践的な方法を、波羅蜜と読んでいます。サンスクリット語のパーラミターを漢訳したものです。そ

の波羅蜜が6種類あるので、六波羅蜜と呼ばれます。①布施...所有欲を断つために資産を教団に寄付する。②持戒...一般人が守るべきゆるやかな戒律を守る。③忍辱...既成の宗教からの批判を耐え忍ぶ。④精進...つねに努力を重ねる。⑤禪定...精神を統一して静かな境地を維持する。⑥般若...言葉では表現できない知恵を得る。

- ・わけのわからない般若波羅蜜多の重要性を説き、般若とは結局のところ呪文なのだとしたのが、「般若心経」です。

- ・「般若心経」の末尾の「揭帝揭帝波羅揭帝波羅僧揭帝菩提蘇婆訶」は、意味不明の言葉です。文脈のない単語の寄せ集めなので、文章になっていません。これは意味不明の呪文として、無心に唱えた方がいいのでしょうか。呪文の無心に唱える。その無心であることこそが、般若すなわち言葉にならない知恵なのです。

- ・もともと山岳修行は、密教と深く結び付いています。呪文をただ唱えるだけでなく、山中を走りながら経文を唱えたり、高い山に登って恐怖と闘ったり、そういう精神修養をすることで、高い境地に昇ることができるというものです。マラソンをやる人には、ランナーズハイと呼ばれる恍惚の境地が訪れるらしいのですが、脳内の酸素が欠乏した時に、一種のドラッグのような効果があるのかもしれない。

- ・京都の東山にある八坂神社には、江戸時代までは牛頭大王という仏教の神さまが祀られていました。牛頭大王は祇園精舎の守護神だと伝えられています。八坂神社の門前町が祇園と呼ばれるのはそのためです。

- ・悪人正機説でいう善人というのは、努力をし、質素に暮らし、欲望を抑えている人のことです。こういう人は、いずれは自力で成仏できるのですから、たとえそれがずっと先のことだとしても、阿弥陀さまにすぎる必要はないのです。努力ができず、禁欲もできず、自分はダメな人間だと思っている人は、阿弥陀さまにすぎるしかありません。だから無心になれるのですね。悪人の方が救われやすいというのはそういうことで、悪人になれと勧めているわけではありません。

- ・ごく最近になって組織を拡大してきた宗教を、新興宗教というならわしになっていますが、組織の拡大を急ぎ過ぎると、信者を洗脳し、自分たちだけが正しいと信じ込ませる、一種の過激な原理主義に陥る危険性があります。自分たちの原理だけが正しく、それ以外の思想をまったく認めないという、極端な独善主義が、過激な暴力と結び付くことを、「原理主義」と呼びます。釈迦が興した本来の仏教は、穏やかで、何よりも平和と安定を求めるものでした。

2. 「仏教は宗教ではない」 アルボムッレ・スマナサーラ×イケダハヤト エヴォルビング

2014 年 10 月 24 日

副題：「お釈迦さまが教えた完成された科学」

帯の言葉：「自分とは何か？ 生きるものの意味は何なのか？」

本書は、スリランカ上座部仏教の長老であるアルボムッレ・スマナサーラ氏と、日本の若者のイケダハヤト氏の対談集である。上掲著は日本人に馴染み深い大乘仏教を扱ったものだが、本書は上座部仏教の高僧の説いたものであり、かなり趣を異にしている。対談であり読みやすいが、その内容は理解し難い。本書には、「仏教は宗教ではない」「お釈迦さまが教えた完成された科学」であるという文が繰り返し出てくるが、私にはその意味がどうしても納得できない。

あとがきで、アルボムッレ・スマナサーラ氏は、「宗教とは何かを信仰することです。それから、信仰する側から言われるとおりに自分を戒めることです。宗教は思考の自由が嫌いです。徹底的に信仰を勧めるのです。（信じる者は救われます）。お釈迦様の教えは“あなたは自ら考えて判断しなさい”というスタンスで始まるのです。宗教には隠すものがいっぱいあります。様々なランクがありまして、信じる信仰者たちはみな平等ではないのです。絶対的な神を信仰するという立場から見ると、人間は永久的に神のしもべで昇格できません。仏教は、一切の生命は平等で輪廻転生して苦しんでいるのだ、説く教えです。仏教の仕事は、生きる苦しみを無くすことです。死んだ人びとの魂を審判して、合格者を天国へ、失格者を地獄へと運ぶ、運送業ではないのです」と書いている。ながらく大乘仏教に馴染み親しんできた私には、この教えは、どうしてもすんなりと腑に落ちない。しかし、現在の私の主戦場であるミャンマーやカンボジアは、上座部仏教の世界であるので、これを理解しなければ、これらの国の人心を掴むことはできないとも思っている。以下に、この本の要点を記す。

- ・残念ながらお釈迦様の「完成された科学」以上に発見するものはないからです。大乘仏教と呼ばれている人たちが、後からいろいろと推察して、仏教が無茶苦茶に壊れてしまったのです。

- ・仏教では「祈っても何もならないんだ」とはっきり言っているんですよ。お釈迦様はこう言っています。「もしも祈ることで何か叶うのならば、人間は仕事をする必要がないんだ」と。

- ・仏教という教えは、その鎖を壊す方法を教えているのです。仏教では精神的な解脱の境地を教えているでしょう。あれはパーリ語で「ヴィムutti」。英訳すると「レボリューション」（革命）です。「フリーダム」（自由）なんです。

- ・100 年長生きしたら、100 年間悪いことをしているだけ。他の生命に 100 年

間迷惑をかけたでしょう。「長生きはありがたい」とか「健康でありたい」とか言いますが、他の生命からすれば、全然ありがたくないんです。

・仏教の研究テーマは「生きるとは何か」です。仏教は心の働きを発見して、生きることが苦であると発見して、そこから方法もみつけて、成功しました。私たちも同じ方法を実行してみれば、苦しみから脱出することはできます。科学の場合は恐ろしい勢いで進んでいるけど、最終的な結論に達してはいないんです。しかし、相当な事実を発見しているのです。仏教が言っていることと科学者が言っていることの間で、一致するところがあり過ぎです。

3. 「苦の見方」 アルボムツレ・スマナサーラ著 サンガ新書 2015年7月1日

副題：「”生命の法則”を理解し“苦しみ”を乗り越える」

帯の言葉：「ブッダの“苦”は“苦しみ”ではなかった」

まず、アルボムツレ・スマナサーラ氏はまえがきで、「仏教用語の漢訳についての問題も考えなければなりません。仏教用語にいったん漢字を当てはめると、それからその漢字の意味をもとにして仏教を理解しようとするのです。しかし漢字の歴史をさかのぼって理解しようとしても、それは仏教の理解にはなりません。漢文化の理解になるのです。パーリ語の *dukkha*（ドゥッカ）という用語に“苦”という漢字を当てはめています。それで私たちは“苦しみ”という意味で理解してしまいました」と書き、漢訳についての問題点を指摘している。この漢訳についての指摘は、正しい。現代日本仏教を理解する上で、われわれはこの漢訳の壁をしっかりと認識しておかねばならない。

アルボムツレ・スマナサーラ氏は本書で、「我々は苦があるから生きているのです。苦しみがなくなったその瞬間で、命も終わりです。これは難しい、人間には理解できない真理です」、「苦 (*dukkha*) は、生命に共通するレベルの、生命が生きていくのに不可欠なものです。そしてそれを認識する機能、認識するはたらきを心といいます」、「生きるとは、既存の苦を新たな苦で置き換えるだけの話です」、「“生きたいといっても意味がない。人生は苦だ”と知ることは、超越した領域なのです。生きていきたいとも、死にたいとも思わない。これは心の解脱の境地です」と書いているが、私にはこれらの「真理」を理解することができない。

著者は、釈迦はこの「真理」を、断食などの苦行という実験を通じて悟ったとして、「お釈迦様の実験で、何がわかるでしょうか？ 呼吸を止めたら、激痛が生まれる。それでも感覚を変えなかったら、死にます。つまり生きるプログラムには感覚があって、我々に絶えず命令が下されているのです。どういう

命令かという、「これを常に変えなさい」という命令です。常に変えるためには、苦しみでなければうまくいきません。我々は怠け者ですから、苦しくないものをわざわざ変えないでしょう。だから感覚は苦しみなのです。だから生きることは苦なのです。何か苦しみがなければ、我々は動きません」と、書いている。

4. 「日本仏教は仏教なのか？ 第1巻 仏教の起源」 藤本晃著 サンガ 2015年6月1日

帯の言葉 : 「誰もが避け続けてきた“禁断の問い”に向き合う！」

本書で著者の藤本氏は、上座部仏教の立場から、大乘仏教への厳しい批判を展開している。まず藤本氏は、漢訳された大乘仏典について、「漢訳などの完全な翻訳語は、釈尊の言葉と推測するには論外のもので」と切って捨て、パーリ語で著された初期仏典について、自説を展開している。また藤本氏は本書で、日本の仏教学の権威である中村元氏らの説への反論を行っている。

私は、今、通っている仏教研究連続講座の講師から、「初期の仏教経典には、パーリ語とサンスクリット語で書かれたものがある。パーリ語は釈迦が活躍した地方の方言である。またサンスクリット語は梵語とも呼ばれ、古代インドの文語である」と教わった。しかし藤本氏は、本書で、「パーリ語による初期仏教文献群が、仏教という宗教教学の範囲にとどまらず、釈尊の時代から2600年もの時を経ても正確無比に伝えられた偉大なる歴史書でもあるのです」、「パーリ語は、西の俗語ピシャーチャ語などというどこかの地方の方言ではありません。その呼び名を変えたものではありません。釈尊の聖典をまとめるために、どの方言でもなくきれいに整えた言葉を、後に注釈家たちが聖典語（パーリ語）と呼ぶようになっただけなのです。その人工語の基本は、釈尊が主に使っていたマガダ地方の言葉です」、「パーリ語のベースはマガダ語なのです。釈尊がはじめて明らかにした真理の教えは、それを伝える言葉さえも、釈尊がはじめてつくり上げたということなのです。聖典（パーリ）を保持するための人工語・文語・標準語たるパーリ語を、真理の教えと同時に、釈尊がつくったのです。だからパーリといえば、聖典の意味でもあり、それを保持するために用いられた言葉の意味でもあるのです。これが仏教の始まりの言葉であり、それはブッダ釈尊がみずからつくったものです」と主張している。

さらに大乘仏教に対して、「仏教教学は100年、200年も時間をかけて徐々に発展していったはずだという先入観に

とらわれたことが、最初の躓きだった」、「パーリ経典に説かれている内容は最初期から高度に発達していた。初期仏教の教学は仏滅後の弟子たちが徐々に

発展させたのではなく、釈尊が最初からきちんと分析して分類して教えていたのだ。パーリ経典は、上座部の伝統で言われているとおり、釈尊の直説だったのだ」と断言し、その根拠を詳しく本書で述べている。私は仏教学者ではないので、これらの主張の是非を論ずる力はない。ただ、上座部仏教者の言い分も、本書を通じて理解することができた。

また藤本氏は、「釈尊が息子につけた名前が“ラーフラ”であり、それが“悪魔”とか“束縛”という意味であるという俗説」に対して、「ラーフラの終わりの“ラ”は、子供になら“～ちゃん”などという意味合いを持つただの接尾辞でしょう。問題は“ラーフ”なのですが、これがある阿修羅の名前なのです。その阿修羅ラーフは月や日の光を覆い隠し、気候も自在に操る大威神力持っています。農業にとって大事な神（阿修羅）なのです」と、新説を述べている。

さらに藤本氏はインダス文明にも言及し、「アーリア人は、インダス文明が衰退した後に西から入ってきた遊牧民族です。やがてインドに溶け込み、現在ではあたかもインド文化の正当な継承者のようになっています。しかし、彼らの宗教（バラモン教）は祭祀をおこなうものばかりで、教義や修行と言えるほどのものはありませんでした。インドに入ってはじめて、瞑想などの高度な修行を知り、さらに釈尊が世に現れた後ではじめて、輪廻やそこからの解脱、因果法則などの真理にわずかでも触れるようになったのです」と書いている。

5. 「仏典はどう漢訳されたのか」 船山徹著 岩波書店 2013年12月18日

副題： 「スートラが経典になるとき」

帯の言葉：「聖書の翻訳よりも歴大に行われ、漢字文化圏での仏教を誕生させた漢訳という知的営みの世界を探索する」

上掲著のように、上座部仏教の立場から大乘仏教へ、漢訳の問題点が厳しく指摘されている。たしかに私も、仏教における漢訳について、上座部仏教僧と同様の疑問を持ち続けていた。そこで、1年半ほど前に、「仏典はどう漢訳されたのか」と題する本書が発刊されたとき、読んでみようと思い買い求めているが、なかなか読めず、そのまま棚ざらしにしていた本書を、今回ようやく、目を通す気になった。本書は学術書であり、おもしろく読めるとは言えなかったが、参考になる個所が多かった。以下に本書の要点を記す。

・仏教は伝播先の東アジア文化の中心に入り込んだかという点、答えは微妙である。ある意味で仏教はたえずアウトサイダー的な位置を保ったとも言える。故国インドにおいてさえ、仏教は正統バラモン教に対するアンチテーゼの役割を果たし、たえず正統との対立と緊張と融和のバランスのうちに継承された。

同様に、仏教は、中国に伝播した後も中国文化の中で西方外来文化として、そして儒教文化とあい入れない戎狄の思想として導入され、伝統文化とある種の緊張関係ないし他所有性を臭わせながら、東アジアの漢字文化を構成する真の中心地点からはやや外れたところにポジションをとりつつ、紀元後の中国文化における重要な支柱の一つとして存続し、今に至るまでおよそ2千年が経過している。

・漢字文化圏において仏教がいかに深く根ざしているかは贅言を要すまい。その意味で仏教を宗教であると規定するのは逆に適性を欠く。なるほど仏教は宗教である。しかしそもそも **religion** からの造語である「宗教」という語がなかった時代、仏教は宗教であると同時に思想であり、哲学であり、学問であり、生き方であり、ものの考え方であり、そしてあえて極論するなら、文化そのものだった。

・「塔」や「魔」、「鉢」などの示す事物のみならず、これらの漢字そのものが仏教伝来以前には存在せず、仏典翻訳の過程で生み出された新漢字であることは、仏教がいかに漢字文化圏の奥底にまで関わっているかをありありと示す一例である。また日本語の五重音表が、その明確な起源や発展の様子はさておき、仏教とともに発達したインド文字学である悉曇（しったん）学の産物であることを知る読者も多いだろう。「色は匂へど」云々のいろは歌が仏教思想と関係することもよく知られている通りである。

・その昔、アジアのいたるところで、仏教は人が生きるための指針を人びとに示し、善とは何か悪とは何か、何をなすべきか、なすべきでないかを教え、時には目には見えない対象についても語り、見えないものにも働きかけるパワーを持つ教えとして、社会の中に生きていた。また文学や美術をうみだし、実社会の中で時には政治を左右することもあった。また仏教は科学思想でもあったし、具体的な事物にも影響を与えた。

・驚くなかれ、仏教には極微（ごくみ）と呼ばれる原子の理論もあったし、須弥山（しゅみせん）世界や三千大世界などの表現で知られる独自の宇宙理論も持っていた。要するに、仏教は単に宗教というより、一つの大きな総合的文化体系だった。なるほど仏教は宗教であるが、同時に信仰や理論、思想を越えてもいる。仏教は多様なものを内包する総合文化なのだ。

・インドの古語には、サンスクリット語と対比的に「自然な（言語）」を意味するプラークリット語と称される諸言語がある。サンスクリット語が文法的に洗練、完成された言語であるの対し、プラークリット語は自然言語である。仏典で用いるプラークリット語の代表にパーリ語がある。これはスリランカ上座部

など南伝仏教の聖典を記す言語である。また釈迦牟尼が話した言語はガンジス河一帯で話されていた古代のマガダ語だったと推測されており、これもブラークリット語の一つである。

・漢訳と並んで重要な仏典の翻訳に、チベット語訳がある。チベット語訳はしばしばサンスクリット語原典のきわめて忠実な訳であると言われる。漢訳された仏典はその古さと言語体系の異なりとにおいてチベットへの伝播とは異なる様相を伝えているということを、はじめに頭の中に入れておく必要がある。漢訳かチベット語訳か、どちらが正しくどちらが間違っているか、どちらが翻訳として優秀かと問うたりすることは適切ではないのである。インドから中国へ、そしてインドからチベットへ、異なる二種の仏教伝播を実現したということであって、その優劣を云々すべき事柄ではない。同様に、インドからスリランカを経て東南アジアという南方ルートの伝承、いわゆる南伝仏教がさらに別の伝播発展を示していることは言うまでもない。

・漢訳には、しばしば読みにくい漢訳がある。通常の漢文としては読めない、ないしは正しく理解できないようなものがあり、漢訳そのものではなく、サンスクリット語原典や対応するチベット語訳、別人による漢訳などと逐一对照することによってはじめて意味をとることが可能となる場合が時々ある。漢文として文章構造が非常に奇妙であり、文法的に普通はそうは読めないが、サンスクリット語原典やチベット語訳などと比べる限り、そう解釈をせざるを得ないという場合もある。漢訳だけからでは誤読してしまうような悪文もある。

以上



【中国経済最新統計】

	① 実 質 GDP 増加率 (%)	② 工 業 付 加 価 値 増加率 (%)	③ 消費財 小売総 額増加 率(%)	④ 消費者 物価指 数上昇 率(%)	⑤ 都市固 定資産 投資増 加 率 (%)	⑥ 貿易収 支 (億ドル)	⑦ 輸 出 増加率 (%)	⑧ 輸 入 増加率 (%)	⑨ 外国直 接投資 件数の 増加率 (%)	⑩ 外国直 接投資 金額増 加率 (%)	⑪ 貨幣供 給量増 加 率 M2(%)	⑫ 人民元 貸出残 高増加 率(%)
2005 年	10.4		12.9	1.8	27.2	1020	28.4	17.6	0.8	▲0.5	17.6	9.3
2006 年	11.6		13.7	1.5	24.3	1775	27.2	19.9	▲5.7	4.5	15.7	15.7
2007 年	13.0	18.5	16.8	4.8	25.8	2618	25.7	20.8	▲8.7	18.7	16.7	16.1
2008 年	9.0	12.9	21.6	5.9	26.1	2955	17.2	18.5	▲27.4	23.6	17.8	15.9
2009 年	9.1	11.0	15.5	▲0.7	31.0	1961	▲15.9	▲11.3	▲14.9	▲16.9	27.6	31.7
2010 年	10.3	15.7	18.4	3.3	24.5	1831	31.3	38.7	16.9	17.4	19.7	19.8
2011 年	9.2	13.9	17.1	5.4	24.0	1549	20.3	24.9	1.1	9.7	13.6	14.3
2012 年	7.7	10.0	14.3	2.7	20.7	2303	7.9	4.3	▲10.1	▲3.7	13.8	15.0
2013 年	7.7	9.7	11.4	2.6								14.1
4 月		9.3	12.8	2.4	19.8	182	14.6	16.6	13.9	0.4	16.1	14.9
5 月		9.2	12.9	2.1	19.7	204	0.9	-0.1	-14.4	0.3	15.8	14.5
6 月	7.5	8.9	13.3	2.7	19.9	271	-3.3	-0.9	-17.3	20.1	14.0	14.1
7 月		9.7	13.2	2.7	20.2	178	5.1	10.8	1.2	24.1	14.5	14.3
8 月		10.4	13.4	2.6	21.4	285	7.1	7.1	-11.7	0.6	14.7	14.1
9 月	7.8	10.2	13.3	3.1	19.6	152	-0.4	7.4	-16.8	4.9	14.2	14.3
10 月		10.3	13.3	3.2	19.2	311	5.6	7.5	-8.2	1.2	14.3	14.1
11 月		10.0	13.7	3.0	17.6	338	12.7	5.4	-9.3	2.3	14.2	14.2
12 月	7.7	9.7	13.6	2.5	17.2	256	4.3	8.6	-3.4	-42.6	13.6	14.1
2014 年												
1 月				2.5	19.8	319	10.5	10.8	-8.6	-4.5	13.2	14.3
2 月				2.0		-230	-18.1	10.4	1.3	4.0	13.3	14.2
3 月	7.4	8.8	12.2	2.4	17.3	77	-6.6	-11.3	6.1	-1.5	12.1	13.9
4 月		8.7	11.9	1.8	16.6	185	0.8	0.7	0.5	3.4	13.2	13.7
5 月		8.8	12.5	2.5	16.9	359	7.0	-1.7	8.4	-6.6	13.4	13.9
6 月	7.5	9.2	12.4	2.3	17.9	316	7.2	5.5	10.3	0.2	14.7	14.0
7 月		9.0	12.2	2.3	15.6	473	14.5	-1.5	14.0	-17.0	13.5	13.4
8 月		6.9	11.9	2.0	13.3	498	9.4	-2.1	5.2	-14.0	12.8	13.3
9 月	7.3	8.0	11.6	1.6	11.5	310	15.1	7.2	9.4	1.9	11.6	13.2
10 月		7.7	11.5	1.6	13.9	454	11.6	4.6	8.7	1.3	12.1	13.2
11 月		7.2	11.7	1.4	13.4	545	4.7	-6.7	-8.6	22.2	12.0	13.4
12 月	7.3	7.9	11.9	1.5	12.6	496	9.5	-2.3	6.1	10.3	11.0	13.6
2015 年												
1 月				0.8		600	-3.3	-20.0	2.2	-1.1	10.6	14.3
2 月				1.4		606	48.3	-20.8	49.8	0.1	11.1	14.7
3 月	7.0	5.6	10.2	1.4	13.1	31	-15.0	-12.9	0.3	1.3	9.9	14.7
4 月		5.9	10.0	1.5	9.6	341	-6.5	-16.4	2.9	10.2	9.6	14.4
5 月		6.1	10.1	1.2	9.9	595	-2.4	-17.7	-14.0	8.1	10.6	14.3

注：1. ①「実質 GDP 増加率」は前年同期（四半期）比、その他の増加率はいずれも前年同月比である。

2. 中国では、旧正月休みは年によって月が変わるため、1 月と 2 月の前年同月比は比較できない場合があるので注意されたい。また、（ ）内の数字は 1 月から当該月までの合計の前年同期に対する増加率を示している。

3. ③「消費財小売総額」は中国における「社会消費財小売総額」、④「消費者物価指数」は「住民消費価格指数」に対応している。⑤「都市固定資産投資」は全国総投資額の 86%（2007 年）を占めている。⑥—⑧はいずれもモノの貿易である。⑨と⑩は実施ベースである。

出所：①—⑤は国家统计局統計、⑥⑦⑧は海関統計、⑨⑩は商務部統計、⑪⑫は中国人民銀行統計による。